

市民のいのち 健康 守る 拠点として

必要な新医療センター早期実現を！

民報

おうしゅう

読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢大手町三丁目
59番地
Tel 24-2021
Fax 24-2049

5月16日、奥州市議会全員協議会が開かれ、5件の説明事項がありました。今回は、新医療センター整備基本計画に係る進捗状況等についてお知らせします。

市健康こども部は、4月の市民説明会での意見や現在実施中のパブリックコメントの集約状況、最終案へのスケジュールについて説明しました。

市民説明会では、参加者が237名となり、ユーチューブ視聴も400〜900回となった。主な意見と対応方針は次の5点。

① 医師確保に確実性がない。

確実な医師確保は、全国的にも困難な傾向であり、当市だけの話ではない。その中でも東北医科薬科大学との包括連携など、可能性を高める取組を進めていく。

② 収支見通しが甘い。安定経営の持続は無理では。

少なくとも最初の10年は持込み資金に頼ることなく運営できる見込み。時勢を見ながら次期の改善策を講じていく。

③ 市立の統合や県立病院との統合も検討すべきでは。

2040年問題を見据え、水沢病院とまごころ病院の2病院体制は必要。少なくとも衣川のへき地医療も継続が必要。当圏域に県立病院は必要で、それが無くなるとの前提での議論はできないと考える。

④ 白紙撤回、または疑問解消されるまで一旦凍結すべきでは。

2040年問題への対応や水沢病院の老朽化・耐震強化は待



老朽化・耐震強化は待ったなし
整備計画の早期実施を！



ったなしの課題。建設そのもののへの反対意見はなく、新病院の必要性自体については一定の理解を得られたと判断。次のステージ（基本設計）に進むことが妥当だと考える。

⑤ 医師会との協議が整っていないのは。

医師会の先生方から指摘のあった在宅医療などの課題解決には時間がかかるため、整備事業を前進させつつ、それらの課題に取り組み、医療関係者との協議・連携を進めていく。

パブリックコメントを

実施しています

●募集期間 5月2日〜

6月2日

●閲覧場所 市ホームページ

(ID15763)のほか、本

庁、総合支所、市立医療施設で

●意見の提出方法 所定の様式に

住所、氏名、電話番号を明記し、

奥州市健康こども部新医療センタ

ー建設準備室（総合水沢病院内）

☎ 25-3833（内線271）

Fax 25-3832

①郵送、②ファックス、③電子メ

ール、④持参のいずれかの方法で

※6月中旬に最終案が提示されま

す。地域を支える新病院を作る

ため、みなさんの意見を反映さ

せていきましょう。

新医療センターの早期着手を願って

市民の声を
紹介します

ないエビデンスのもと、新築すると決定されました。病院のボランティアなどで関わっていた私は希望の光を

4月17日付け胆江新聞にて基本計画中間案の修正を拝見しました。中間案よりさらにコンパクトに、しかし医師確保策への取組の進捗状況や建設費をいかに低減化するか、いかに資金を引っ張ってくるか、市長をはじめ病院長、関係機関職員があらゆる知恵を絞って組み立てた新医療センター整備基本計画中間案だと感じています。でもまだ、基本計画決定まで今の状態では開設予定の2030年に間に合うかしら、と不安です。市民の暮らしを支える行政の滞りは他でもない、市民に跳ね返ります。人口が減少するから、国が示す地域医療構想のもとに市立医療機関の統合を掲げ、ベッドを削減しなければならぬという立場は、ますます住民サービスを住民から遠くかせています。（中略）

三師会は協議をボイコット

それが平成24年以後、市議会での様々な手続きが通り、水沢病院は改修でもなく、耐震工事でも

見ました。その基本構想策定のために市長は医師会、歯科医師会、薬剤師会の三師会に対し有識者会議への招へいを案内しましたが、国の基本構想との違いが理由でしようか、不参加の態度を取り続けられました。

いのちと健康を守る体制を

そんな中でも地域医療は介護事業者との連携のもとに市民の健康増進保持のため、回転しています。産婦人科をはじめとした医療の後退がある中で、水沢病院に着任された整形外科医は水沢に骨をうずめるつもりでと抱負を語っていただきました。複数の医師が着任し、医師確保の道筋も開けてきたようです。医師が気持ちよく働ける環境づくりを是非医師会の先生方と共に作っていただきたいです。

小児から高齢期まで、予防接種、健康診断など日々の健康維持に市民は先生方にお世話になっていきます。ここまで練り上げられた中間案で前に進みましょう。市民が待っています。（奥戸三保子）